

立教大学 2008/12/12

アクション・リサーチ型ESD の開発と推進


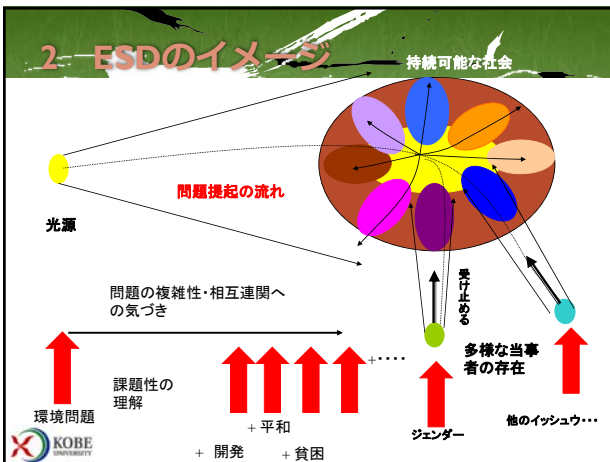


神戸大学
人間発達環境学研究所
教授 末本 誠




1 取組の基本

- (1) ESDとアクション・リサーチ
 - ① 持続可能な社会＝平和・人権・貧困・環境など
 - ② 学生の当事者意識と問題解決能力の形成
 - ③ 3学部の合流:
新しい倫理創造(文学部)
持続可能な経済(経済学部)
自己変革の可能性(発達科学部)
 - ④ ESDサブコース＝実践者・支援者の育成
- (2) カリキュラム
ESD基礎・ESD論・ESDフィールド演習等
- (3) 運営組織
カリキュラム開発委員会・神戸ESD支援ネットワーク(RCEと連動)


3 ESDカリキュラムの構成

- ・大学カリキュラムの規則性とA・Rの矛盾
＝原論から各論、演習という進行 v s A・R
- ・基礎的知識の積み上げとA・Rによる経験の兼ね合い
- ・A・R型へのこだわり
＝参加・経験・問題解決
- ・ツール・ド・ESDの試み＝初年度から経験を重視したカリキュラムの展開



4 カリキュラム編成の原理

<p><知識></p> <p>フィールド演習：確認</p> <p>↑</p> <p>関連科目：拡張・スキルの獲得</p> <p>↑</p> <p>ESD論：理解</p> <p>↑</p> <p>教養原論(ESD基礎)：導入</p>	<p><アクション></p> <p>自己と仮説の再構築</p> <p>↑</p> <p>自己の発見</p> <p>↑</p> <p>場の理解・仮説の構築</p> <p>↑</p> <p>参加・場の共有</p>
---	--




5 ツール・ド・ESDの構想

ツール・ド・フランス (Tour de France)

- ・コンパニオナーージュ (同職組合)
- ・徒弟(若者)の巡礼の旅
- ・現場(親方・先輩・仲間)とたまり場(職人宿)

↓

ツール・ド・ESD


- ・ESDの現場と実践者
- ・経験と出会いの旅
- ・地域と自己の発見



6 ツール・ド・フランス (職人の巡礼の旅)



図2 アダリコル・バルディエのフランス巡歴 (1824-1826)



7 発達科学都のフィールド

サテライト施設「あーち」
子育て支援を核とした共生のコミュニティ形成の拠点


サイエンス・ショップ/カフェ 科学者などの専門家と一般の市民が飲み物を片手に気軽に科学などの話題について自由に語り合う新しいコミュニケーションの場です。

コウノトリプロジェクト コウノトリが住める環境が私たち人間にとっても安全で安心な豊かな環境であり、人と自然が共存する地域づくりを進めながらコウノトリの野生復帰の推進をめざすこととしています。

あいな里山の里山づくりをとおして環境について学ぶ。

キャリアカフェとジェンダー・リサーチ
さまざまな女性研究者のキャリア形成とライフスタイル向上に資するヒントに出会える集いです。彦根市でジェンダーに関する調査活動を行います。

2008年度 ESDコース



サテライト施設「あーち」
子育て支援を核とした共生のコミュニティ形成の拠点

のびやかスペースあーち



2008年度 ESDコース



あいな里山

「あいな里山」とは、神戸市北区山田町彦根(あいな)にある里山です。この234ヘクタールの敷地は、**あいな里山公園**(神戸地区)として整備されています。都市近郊にあって押し寄せる開発の波の中で思っている貴重な自然を再生し、都市に住む人たちが身近なところで自然体験のできる環境教育のフィールドづくりを行っている。



現在荒廃している里山の自然を復元して、ふるりの原風景を再生する野外活動と、その実地体験を通して自らも自然学習を行ない、国営里山公園づくりに参画。
阪急電車神戸線「新開地駅」で神戸電鉄小野線に乗り換え、「彦根駅」下車、徒歩20分。所要時間「新開地駅」より約40分。

2008年度 ESDコース



コウノトリプロジェクト (新田小学校プロジェクトE)

コウノトリが住める環境が人間にとっても安全で安心な豊かな環境であり、人と自然が共存する地域づくりを進めながらコウノトリの野生復帰の推進をめざす活動。



2008年度 ESDコース



サイエンス・ショップ/カフェ

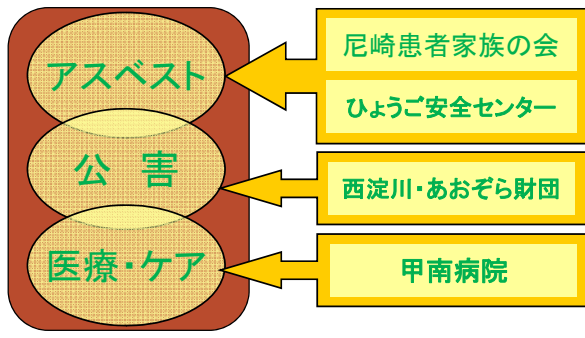
科学者などの専門家と一般の市民が飲み物を片手に気軽に科学などの話題について自由に語り合う新しいコミュニケーションの場です。



Science Cafe KOBE

2008年度 ESDコース

8 文学部ESD演習1のフィールド



- アスベスト ← 尼崎患者家族の会, ひょうご安全センター
- 公害 ← 西淀川・あおぞら財団
- 医療・ケア ← 甲南病院

KOBE UNIVERSITY

尼崎患者家族の会

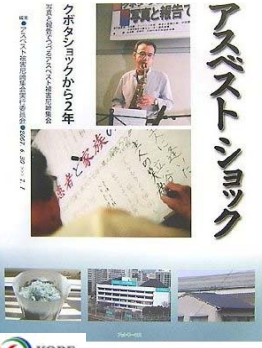
アスベストショック

クボタシロクから3年

・アスベスト疾患の患者とその家族によって設立

被害者への聞き取り調査

当事者となってアスベスト問題を考える



KOBE UNIVERSITY

あおぞら財団

西淀川公害訴訟の和解金で設立

西淀川公害の歴史

公害地区の再生



KOBE UNIVERSITY

最近の活動

防災シンポジウム

「持続可能な社会と防災教育の普及」



田中 泰雄

KOBE UNIVERSITY

9 経済学部のフィールド

ごみ5か条原則
~Five garbage article~

1. ゴミットメントします
ごみの課題と軽やかに関わります。
2. コミュニケーションします
ごみをテーマに人と人をつなげます。
3. ゴミカルでいきます
ごみのことをもっと楽しします。
4. イキゴミを集めます
ごみへの熱意が集まるようにします。
5. ダイゴミを作ります
ごみへの意識と価値を変えます。

KOBE UNIVERSITY

▲ 棚落ち商品 ReVALUE 販売 (関学支部)

▲ 情報を伝えるボード (関学支部)

▼ 連日夜までつづく会議

▼ 勉強会も実施

▲ メンバー集合写真

KOBE UNIVERSITY

5月8日には記者会見をしてみたり、

5月14日～5月18日には、見本展示会として、スーパーに展示してました。

5月17日には、ゴミ拾いやイベントで種痘のキャンペーンなどもしました

KOBE UNIVERSITY

6月6日には、活動の様子を聞いて、なんと香港雑誌から取材がきたり

7月4日、神戸市長まで見学に...

8月8日～8月9日 店頭アンケート調査をしました。

KOBE UNIVERSITY

「ESDコース」を2008年度より新設

環境教育(環境・経済・社会)の3領域を統合的に捉えることにより、環境・経済・社会の3領域の統合的な理解と実践を促すことにより、持続可能な社会の実現に貢献することを目的として、本学では2008年度より「ESDコース」を新設しました。

ESDコースは、環境・経済・社会の3領域を統合的に捉えることにより、環境・経済・社会の3領域の統合的な理解と実践を促すことにより、持続可能な社会の実現に貢献することを目的として、本学では2008年度より「ESDコース」を新設しました。

ESDコースの目標は、環境・経済・社会の3領域を統合的に捉えることにより、環境・経済・社会の3領域の統合的な理解と実践を促すことにより、持続可能な社会の実現に貢献することです。

ESDコースの特色は、環境・経済・社会の3領域を統合的に捉えることにより、環境・経済・社会の3領域の統合的な理解と実践を促すことにより、持続可能な社会の実現に貢献することです。

ESDコースのメリットは、環境・経済・社会の3領域を統合的に捉えることにより、環境・経済・社会の3領域の統合的な理解と実践を促すことにより、持続可能な社会の実現に貢献することです。

ESDコースのデメリットは、環境・経済・社会の3領域を統合的に捉えることにより、環境・経済・社会の3領域の統合的な理解と実践を促すことにより、持続可能な社会の実現に貢献することです。

ESDコースの今後の展望は、環境・経済・社会の3領域を統合的に捉えることにより、環境・経済・社会の3領域の統合的な理解と実践を促すことにより、持続可能な社会の実現に貢献することです。

KOBE UNIVERSITY